

Rookies Festival



成人向
FOR ADULT ONLY

本誌は、箭学園新聞の特別別冊として、「第一回 箭カップトーナメント」のエキシビジョンマッチの開催を記念して、特に、予選を好成績で勝ち抜いたシードチームの代表選手の活躍を中心に紹介することによって、箭カップ本戦をよりいっそう楽しんでいただきたいと考えています。

この「第一回 箭カップトーナメント」ルーキーズ フェスティバル」(以下、箭カップ)は、U・15の春の新人戦トーナメントとして企画されたもので、各チームとも、この春の新人部員のみでチームを構成しています。今回ご報告するのは、予選を勝ち抜いたチームのうち、好成績によりシードとなった五チームによって先日行われた、エキシビジョンマッチの後に行われたアトラクションについてです。

箭カップにおいては、新人戦トーナメントという性格上、どのチームにも本来のキャプテンはいないので、大会事務局から依頼して、各チームのキーマンだという少年を箭カップ限定のキャプテンとして登録してもらっています。本誌では、この彼らを、「各チームの代表選手」として特にクロージアアップしていきたいと思っています。

第一回

箭カップトーナメント

~Rookies Festival~

アトラクション (エキシビジョンマッチ) 報告

今回ご紹介するシードチームは、次の五チームです。

(登録順)

- ・ 箭学園サッカー部
- ・ 箭ライスFC
- ・ シーガルSC
- ・ 生春学園サッカー部
- ・ FCバンブーG

箭学園サッカー部は、言わずと知れた、我が箭学園の中等部サッカー部です。今年の新入部員も粒ぞろいだと評判です。

箭ライスFCは、地元有志によって設立されたクラブですが、近年になって急激に力をつけてきているチームです。

シーガルSCは、有名な古豪のクラブですが、今年の新戦力は十年に一人の逸材だということ、のぼり調子です。

生春学園サッカー部は、我が箭学園の長年の良きライバルとして知らない諸君はいないでしょう。

最後のFCバンブーGは、本当について最近立ち上がったクラブですが、高レベルでそろった選手達と、しっかりしたマネジメントで今大会の台風の目になっています。

そして、今回特に注目してご紹介するのは、各チームのキーマンとしてキャプテンを勤める、次の五人の選手達です。



一條 雅樹

筒学園サッカー部



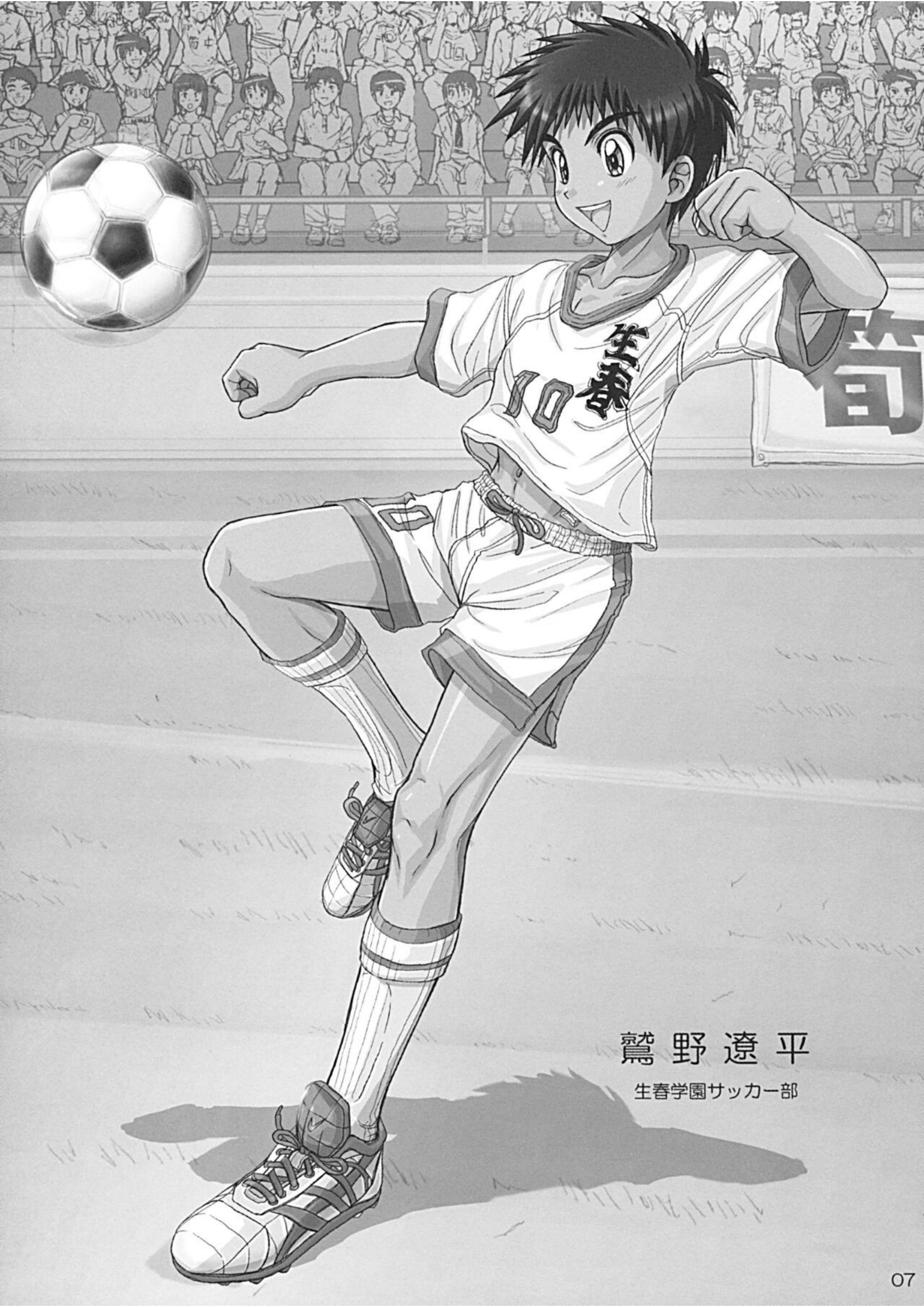
神原郁海

筒ライスFC



谷島慶太

Seagull SC

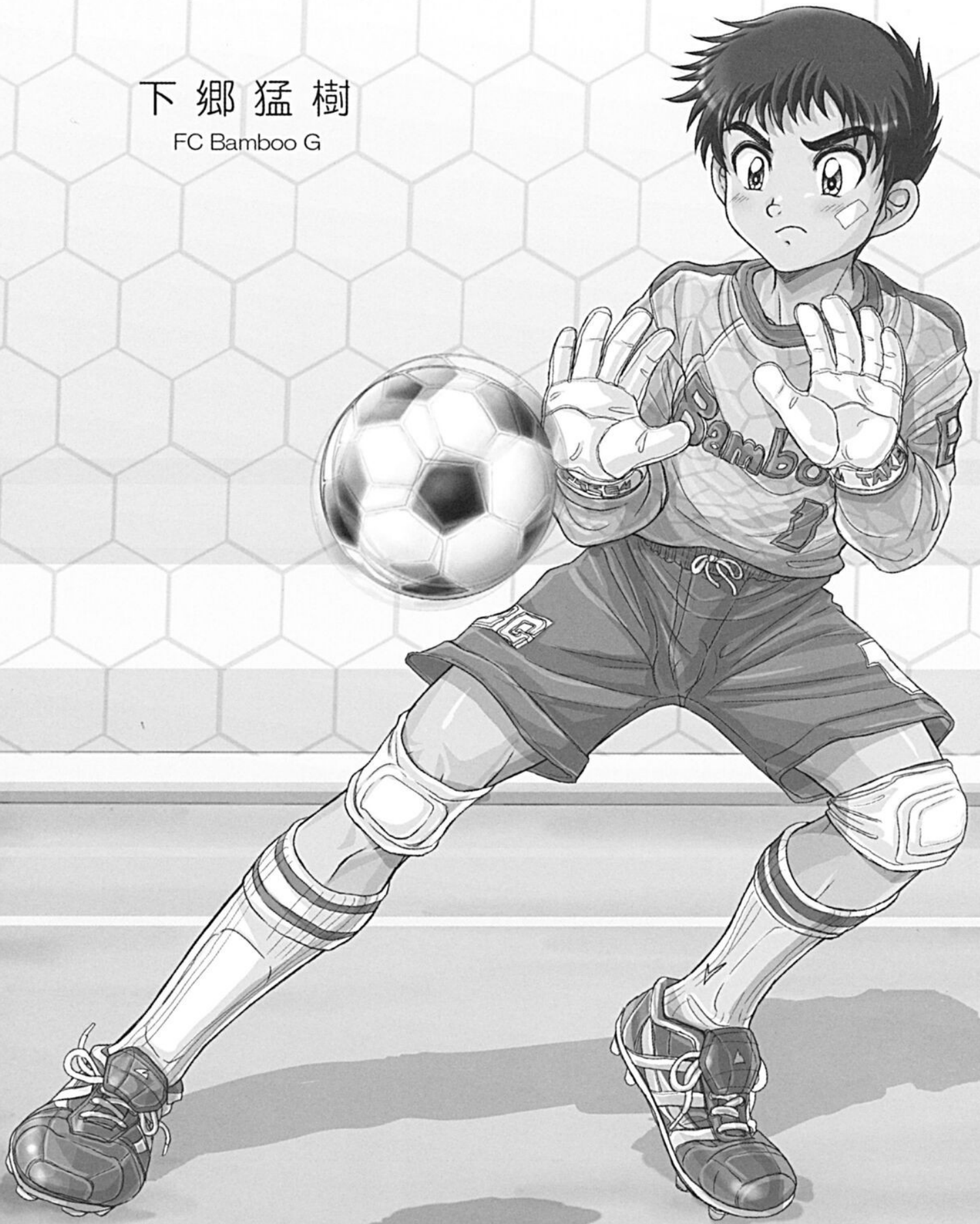


鷺野遼平

生春学園サッカー部

下郷猛樹

FC Bamboo G



◎注目は、エキシビションマッチではなくて、その後のアトラクションのほうだ！

午前中にエキシビションマッチは終了し、午後からは、参加チームによる観客のためのアトラクションが行われました。

午後一時の時報とともに、軽快でコミカルな曲が会場内全体に流れだすと、グラウンドを取り囲む客席の最前列の柵沿いに、ビブスとシューズ、ソックス以外は身につけていない、半裸の少年達が飛び出してきました。彼らは、今回ベンチ入りできなかった参加五チームの新人部員達です。

総勢で七十人以上はいるでしょうか、全

員が位置につくと、さらに曲がアップテンポな曲に変わり、半裸の少年達は一斉に踊りだします。

ビブス以外は一切身につけていないので、激しく踊ればチンポがぶらぶらと見られ放題なのですが、むしろソレも踊りの一部として積極的にぶらぶらと見せ付けてくれました。

大勢のサッカー少年達によるチンポ踊り（笑）が終わると、間髪いれずに、派手な爆音とともにグラウンドの選手入場口から大量のスモークが噴出して、その中から、午前中にエキシビションマッチを戦った五チームの選手が再び登場しました。

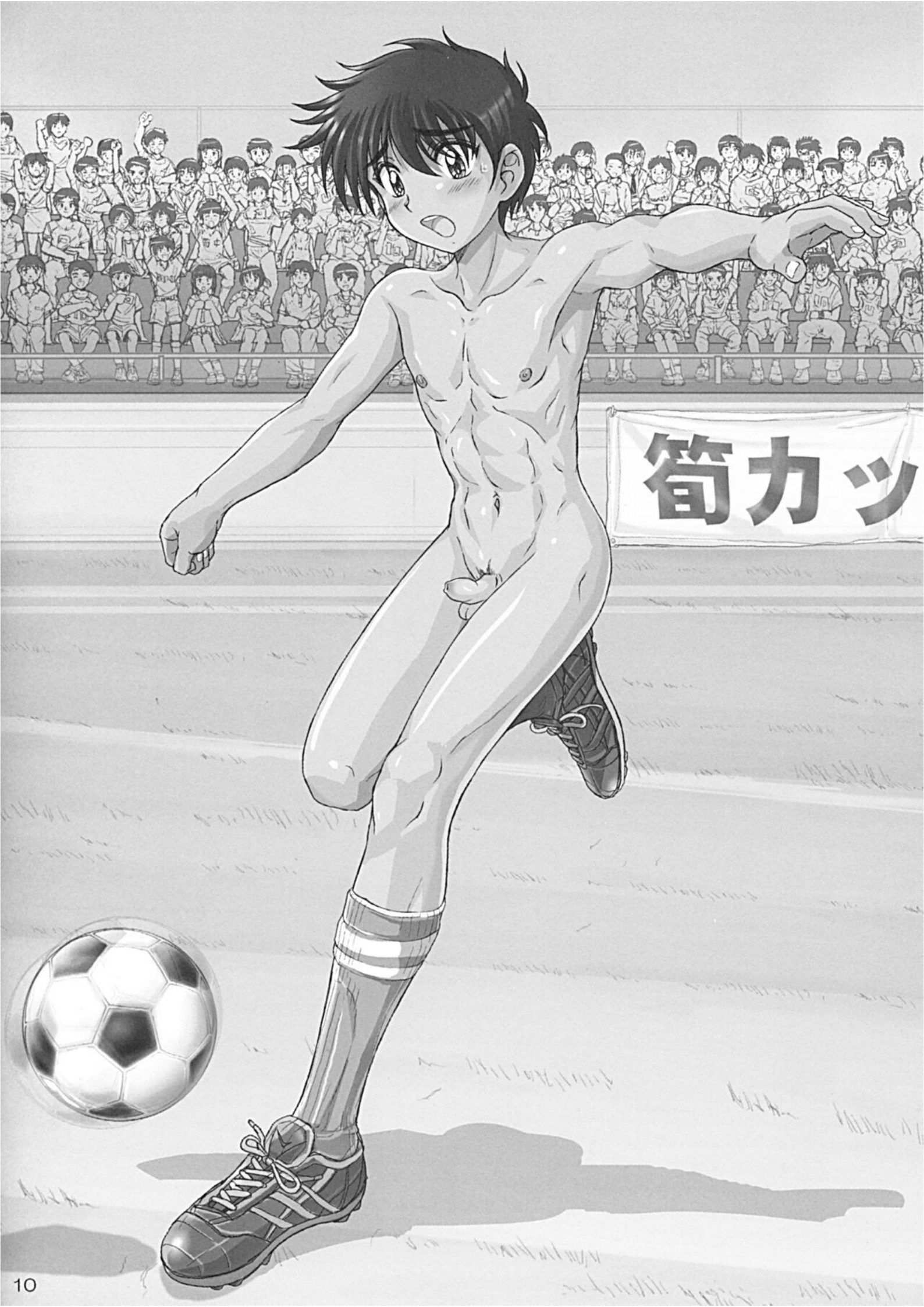
ただし、全員が、シューズとソックス以外は身につけていない、全裸で！
そう、午後からのアトラクション前半は、

全裸サッカーなのです！

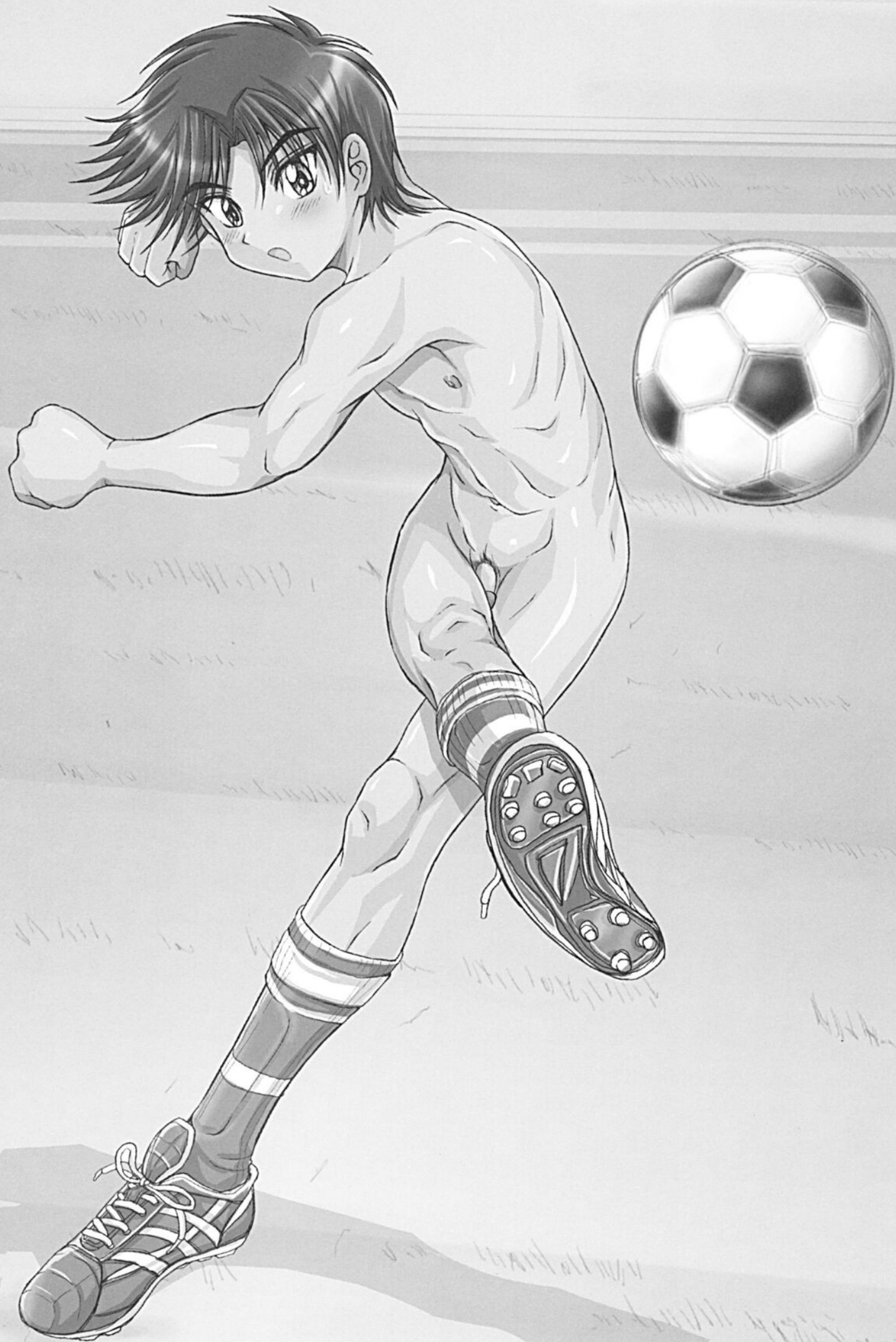
本当は、全選手の勇姿をご紹介したいのですが、紙面の都合で、キャプテンの五人のみご紹介します。

ところで、左の写真のモロチン少年は、先ほどご紹介した、アトラクション冒頭にチンポ踊りを披露してくれた少年の一人で、青河ユウ君です。最初カメラを向けるとチンポを隠しちゃったんですが、お願いして見せてもらいました！





筍カツ











◎ アトラクションはいよいよ佳境に！

アトラクション前半の、筒カップブシードチームの選手達による「全裸サッカー」は大いに盛り上がりつつ無事終了し、またまたピブス少年達による踊りが披露されました。厳密には、踊りというよりは、サッカーボールを使った演技でしょうか。

とにかく、またまたぶらぶらと大量のチンポを披露してくれました（笑）

やはりサッカー少年はサッカーボールと触れ合っているのが一番似合います。

前半の踊りの際には恥ずかしがっていた少年たちも、ボールを相手にしていると、

そんなことはまったく忘れてしまうようでした。

そういえば、全裸サッカーを行ったレギュラーの選手達も、最初はぎこちなかったのに、直ぐに試合に熱中して、全裸であることも忘れてしまったかのような熱いプレイを見せてくれましたね。

そして、いよいよ後半のアトラクションですが、こちらは、少し紙面を割いてじっくりご紹介したいと思えます。基本的には、エキシビションマッチの成績による公開罰ゲーム、という内容です。あらかじめ各チームのキャプテン個人の成績の目標を決めてもらい、その成績に届かなかった場合は、

観客のアンケートで公募した内容の罰ゲームを、キャプテン自身がこの場で観客に披露するのです。

もちろん、目標成績を満たせば罰ゲームは無しですが、各チームともファンサービスの重要性は十分に認識してくれているようです（笑）

そして、左の写真のモロケツ少年は、先程ご紹介したチンポ演舞を披露してくれた少年の一人で、大海健也君です。カメラを向けると、やはり逃げ出したのですが、ちょうど良い突風が吹いて、かわいいお尻をバッチリいただきました！

まず最初に登場したのは、箭学園の選手達でした。全員、再びユニフォームを着てグラウンドの真ん中に一列に整列すると、この大会中チームのキャプテンである一條雅樹君が、透明なプラスチック製の箱の前に進み出ます。

その箱の中には、観客から試合前に募集した、各チームのキャプテンごとに、やらせたい罰ゲーム内容のアンケート用紙が入っています。

箭学園の一條君に、チームの仲間が課したノルマは、エキシビジョンマッチ一試合で五得点以上の奪取！しかし一條君は、チームのエースストライカーとして大活躍しましたが、惜しくも2得点にとどまりました。

したがって、めでたく(?)罰ゲームの執行となったのです。

グラウンドの真ん中で、罰ゲーム内容のアンケート用紙が入った箱の中から、一條君が自らの手で引いた紙に書いてあった罰ゲームは、

『全裸でチームメイトに犯されながら、ドリブルでグラウンドを一周』

という、ちよつぱり過激な内容でした。引き当てたアンケート用紙を読んだ瞬間

の一條君の表情は、なんとも形容しがたい気の毒なものでしたが、約束は守らなくてはいけません。

罰ゲームの内容は、すぐさま場内アナウンスで読み上げられて、客席は満場の歓声に包まれます。

がつくりと肩を落とした一條君は、その過酷な指令書をチームメイト達に渡すと、着たばかりのユニフォームをその場で再び全て脱ぎ捨てて、一人だけ、全裸を観客に晒しました。

そして、罰ゲームの内容を確認したチームメイト達は、手短かに話し合い、その中の色黒な選手一人が、やはりユニフォームを脱いで全裸になりました。

その彼を見て、一條君はあからさまに不満そうでしたが、色黒の彼は、心底楽しんで笑って一條君の肩を叩きます。

後で取材したところ、その彼は日向君という、いつも一條君とは何かと競い合っている、チーム内でライバル関係にある人物だったそうです。

そして、いよいよ罰ゲームの開始です。

日向君に命じられるまま、一條君はグラウンドの真ん中で、大また開きで前屈みになってアナルを晒し、そのアナルに日向君の手が情け容赦なく指を二本突っ込んで、

乱暴に揉み解します。一応、ローションを使っているとはいえ、一條君は少し辛そうでした。

そんな乱暴な前戯もそこそこに、日向君の固く勃起したペニスが一條選手のアナルに一気に挿入されます。亀頭も剥けきった、なかなか立派なモノでしたが、いきなり根元まで全部入れると、直ぐに二人羽織のよう体を密着させて、一條君にドリブルをさせながら、ゆっくりとグラウンドを回りはじめました。

ドリブルと言うにはあまりにゆっくりとボールを転がしながら進むうちに、最初は縮み上がっていた一條君のペニスは、直ぐに硬く勃ちあがり、半剥けの亀頭の先から透明な粘液を零しはじめます。

そしてある程度進んだところで、日向君が一條君の耳元で何かを囁きながら、一條君の乳首を摘み上げた瞬間、一條君のペニスから、勢い良く精液が噴出しました！

全裸の少年二人の合体行進に沸いていた客席はさらに盛り上がり、その後、気を良くした日向君の手により、一條君は残りの三面の観客席に向かつても派手な射精を披露してくれました。



笥カツ

続いて登場したのは、箭ライスFCの選手達です。やはり全員が再びユニフォーム姿で整列し、チームを代表するキャプテンの神原郁海君が、罰ゲーム内容のアンケート用紙が入った透明なプラスチック製の箱の前に進み出ます。

先ほどの、箭学園の一條雅樹選手の罰ゲームの興奮が冷めない観客は、今大会で一番のイケメン君の登場に沸きあがります。

この箭ライスFCのMFである神原君は、同世代の中では三本の指に入ると言われる有力選手であり、しかも、アイドルタレント顔負けのマスクと、クールな性格で最近各方面で大人気の選手なのです。

その彼が、おそらく初めて公衆に全裸を晒しただけでも凄いことなのに、さらに罰ゲームまでするというところで、観客席は異様な熱気に包まれています。

今回、神原君に課されたノルマは、エキシビジョンマッチ一試合でやはり五得点以上の奪取！

彼が、いわゆる攻撃的MFだということは差し引いても、かなり無茶な数字です。

ただ、後で取材した結果、先ほどの一條選手と違い、この条件は神原君自身が言い出した数字で、そもそも、事実上お約束である罰ゲームの対象になる『キャプテン』という役割についても、自ら進んで引き受

けたということでした。そんな、クールでチーム思いな彼に待ち受けていた運命は、思いのほか過酷でした。

神原君の引いた用紙に書かれた指令は、

『「ボール君」五個以上をお腹の中に入れて、そのまま全裸ランニングでグラウンドを一週以上して十分に温めてから、グラウンドの真ん中で生んであげて！』

という、凄いものでした。

ちなみに、『ボール君』というのは、最近箭学園で流行っているお菓子で、ピンポン玉くらいのゴム製のサッカーボールの中に、一回り小さな丸いチョコレートが入っていて、食べる時はこのゴムを破って取り出しますが、この中のチョコレートがやたらと硬いため、ゴムごと人肌で温めてから食べる、というのが逆に受けている物です。

罰ゲームの内容が場内アナウンスされると、会場はどよめきに包まれました。

神原君自身は、軽くため息をつくと、すぐに潔くその場でユニフォームを脱いで全裸になり、チームメイトに何か伝えてから、グラウンドの真ん中に進み出ます。

そして、ボール君が用意されると、大きく足を開いて前屈みになり、アナルを自ら広げてチームメイト達に差し出しました。

神妙な表情のチームメイトが、ローションをたっぷりかけたボール君を一個づつ、アナルにゆっくり押し込んでいき、全部で六個のボール君が神原君の腹に納まると、身を起こした神原君の股間ではきれいに剥けたペニスが見え、腹筋にびったりと張り付いていました。彼は、その勃起したペニスを隠そうともせず、そのまますぐに走り始め、ぼんぼんと勃起したペニスで腹を打つ痴態を晒しながら、観客の前を、なんと二週もしてみせました。その間さすがに下腹部の違和感に顔を顰めながらも、大きく息を乱すこともなく走りきり、グラウンドの中央にブリッジのような体勢で座り込むと、大きく息を吐いて、最後の命令を実行しました。

形の良い腹筋とペニスは、自らの透明な粘液に濡れ、呼吸に合わせて上下していたのですが、その腹筋がキュッと締まった次の瞬間、ペニスからピュッと射精するのと同じに、ポトリと小さなサッカーボールがグラウンドに転がりました。そして彼のアナルからは、既に次のボールが頭をだしていました。

時間にすれば、十分も掛からなかったでしょうが、クールな彼は、クールなまま、生まれて初めての痴態を大勢の観客に披露してくれました。



三番目に登場したのは、シーガルSCの選手たちです。彼らはなんと、一応はユニフォームを着てはいるものの、良く見るとシャツだけで、下半身は何も身に着けていませんでした！

股間はシャツでほとんど隠れているのですが、中には自分でシャツを捲り上げてチンポを客に見せている選手が何人もいたりして、最初の二チームに比べると、かなり陽気な雰囲気です。

このチームのキャプテンである谷島慶太君は、そういうチームカラーを象徴するような腕白なキャラクターが皆に愛されている存在で、アトラクション前半の全裸サッカーでも、一番楽しそうにプレーしていました。

そして、キャプテンとして谷島君に課されたノルマは、エキシビジョンマッチ一試合で、なんと百得点以上！

という、まさに罰ゲームをやる気満々の内容です。

しかし、罰ゲーム内容のアンケート用紙が入った透明なプラスチック製の箱の前に進み出た谷島君の表情には、それまでの笑顔は既に無く、ただただ不安の色だけが隠せませんでした。

無理ありません、彼より前の二人の罰ゲームの内容は、恐らく彼の想像を遥かに

超えていたことでしよう。

しかし、いまさら逃げ出すわけにもいきません。

暫く逡巡したあと、意を決した表情で思い切りよく箱の中に腕を突っ込みました。

『全裸でサッカーボールを背中に乗せてグラウンド一週。ただしボールを落とす度に「子ボール君」を一個アナルに！』

谷島君が引き当てた罰ゲームの内容が会場内にアナウンスされると、観客の反応は正直微妙でした。前の二人に比べるとイマイチ盛り上がり欠ける印象だったようです。また、谷島君自身も、ほっとしたような表情を浮かべていました。

しかし、実際に始まってみると、実はこれがなかなか過酷だったのです。

谷島君も、前の二人同様、いやそれ以上に良い脱ぎっぷりで（そもそも下半身はすでに裸でしたから）全裸になると、いつもの悪戯っぽい笑顔を取り戻して、四つん這いになって、背中にサッカーボールを乗せて進みはじめました。

背中のサッカーボールを落とさないようにバランスを取りながらゆっくと進むのですが、そうすると自然とお尻を高く掲げてプリプリ振る形になり、とてもコミカル

な動きになり、またその体勢だと、アナルが完全に丸見えになってしまいました。

ただ、そのこと自体は、谷島君はまったく気にするそぶりは無く、むしろ笑いながら、さらにアナルを客席に晒すようにお尻を振ったりもしていました。

でも、そんな余裕は長くは続きませんでした。とにかく、サッカーボールがよく落ちてしまうのです。その度に、谷島君のアナルに「子ボール君」が一個つづ挿入されていくのです。

ちなみに、「子ボール君」というのは、神原選手が産卵プレイに使った「ボール君」の兄弟商品で、ビー球くらいの大きさのチョコボールです。「ボール君」と違い、ごく普通のチョコレート菓子なので、そのままアナルに入れるとすぐに溶けてしまうため、セロファン個別包装された状態のまま、アナルに入れられました。そして、このことが谷島君を追い詰めたのです。

大量の包装のセロファンが彼の直腸内で蠢き、彼の前立腺を苛んだのです。

グラウンドを半周もしないうちに、彼のペニスからは、ダラダラと白いものが混じった粘液が漏れ続け、ようやく一週した瞬間、谷島君は、叫びながら自分でペニスを扱きたて、その場で大量に射精して果ててしまいました。



四番目に登場したのは、生春学園の選手達です。彼らは、シーガルSCに急遽対抗したのでどうか、シューズとソックスだけ身に着けた格好で、アトラクション前半の全裸サッカーと同様に、事実上の全裸で入場してきました！

彼ら生春学園のチームカラーとしては、シーガルSCと違って、こういう類の悪ノリはしないはずなのですが、どうやら、『売られたケンカは絶対買う』という彼らのポリシーの方に引っかけたようです。

このように、決して悪い意味ではありませんが、いわゆる攻撃的なチームカラーを体現しているのが、今回キャプテンを務めている鷺野遼平選手です。

どちらかという和小柄な体格の選手ですが、どんなに体格に勝る相手にも真っ向から突っ込んでいくプレースタイルは、同世代の選手達の間ではかなり有名です。

今日のメインイベントであるエキシビジョンマッチではもちろんの事、アトラクション前半の全裸サッカーの際にも、全裸というお遊びに怒りながらも、いつもとまったく同様に果敢に攻めまくり、文字通り体当たりで箭学園の一條君にぶち当たって全裸で抱き合ったりしていました。

そんな強気の彼らしく、罰ゲーム内容のアンケート用紙が入った透明なプラスチック製の箱の前に立っても、シーガルSCの谷島選手のような不安な表情は一切見せず、また、当然のように一切躊躇うことなく、無造作に腕を突っ込むと、迷わず一枚の用紙を抜き出しました。

『勃起チンポをフリーキックに差し出す』

ただ、さすがの彼も、この内容を見た瞬間は顔色を変えました。

素直に読めば、チンポを、というよりは金玉をフリーキックで蹴られる、という意味に読めるわけで、それは、男として文字通り悪夢でしかない内容なわけで。

さすがに、これについては会場内に内容がアナウンスされる前に、運営側が協議して内容が修正されました。

修正後にアナウンスされた罰ゲームの内容は、

『チーム全員でのフリーキックのボールの脇に、勃起チンポを無防備に晒すこと』

となりました。

これは、普通に読めば、ちよつと怖いだけで、特に何も無い内容ですが、ただ、

『フリーキックに失敗は付き物です』
という一言が、ワザワザ付け加えられているのです。

生春学園はケンカ上等の攻撃的なチームですが、同時に、何事にもスジを通す、義理堅い古風な一面もあるチームです。

そんなチームである以上、『お約束の罰ゲーム』でただ救済されたままでは許されません。

罰ゲーム実行直前、鷺野君はチームメイトから、こう耳打ちされていたそうです。

「玉は潰さないようにする。だがそれ以外は覚悟しとけ。すくなくとも、自分オナニは諦めな」

それに対して鷺野君は、気丈にも、
「おう。思いつきりやってくれ」
と答えたそうです。

ちよつとカッコ良過ぎですが、どうやら彼らは本気でそういう会話をしたようなのです。自分もそうですが、オトコってこういうところは馬鹿な生き物ですよ。

そして、そんな事は知らない（その時点では記者自身も）観客の前で、実際に鷺野君のチンポにはチームメイトのスパイクとボールが次々と襲い掛かったのです。



そして、最後に登場したのは、FCバンブーGの選手達です。彼らは、ごく普通にユニフォームを着て登場しました。ただし、キャプテンを務める、GKの下郷猛樹選手以外は、下郷君だけは、なぜかチームで一人だけ、いきなり全裸での登場でした。

このFCバンブーGというチームは、まだ設立から日が浅く、チームカラーというものはまだ確立していません。今大会でも、いわば台風の目のような存在で、どのチームもノーマークでした。確かに個々の選手のレベルは高く、運営やコーチングもしっかりしています。ただ、選手個人の個性が目立つ分、チームとしての一体感はいまイチな感がありません。そんな中で、下郷君だけは、黙々とチームのためだけに全力で尽くしているような印象があります。

おそらく、今回のGKながらの『キャプテン』も、そんな彼の性格からでしょう。ただ、そんな彼の存在に、他のチームメイト達も、甘えすぎないように気をつけているようで、

「あいつ、ほっておくと、いつのまにか全部背負っちゃうから……」

とは、チームのエースFWの城田君の言葉です。

今回の『一人全裸』でも、直前に、やはり全員で脱ごうという話が出たようなんです。

すが、下郷君自身が断ったそうです。そんな、彼らに命じられた罰ゲームは、ちよつと辛いものでした。

『全裸で目を閉じて一人五本づつ、五人のフリーキックを受けて、一本成功ごとに、公開オナニー』

これは、一見、大したことの無い内容に見えますが、かなり過酷な部類に入ります。なぜなら、フリーキック一本成功ごとに、公開オナニーということは、仮に全部成功すると二十五回射精しなくてはならないのです。これは、あまりにも非現実的です。しかし、まともにやれば全部入ります。入れないためには、ボールを蹴る側が、下郷君にワザと『当てる』必要があります。しかも、転がってゴールマウスを割ってしまったてはいけませんので、ある程度の強さで蹴らなくてはなりません。そのことを、瞬時に理解したチームメイトは目を剥いて顔色を変えましたが、当の下郷君は、まったく顔色を変えず、

「オレは頑丈だから大丈夫。一人一回、五回くらいなら射精できる」

そう言うと、さっさとゴールの前に大股開きで立って大きく腕を広げ、目を閉じてしまいました。つまり、五回は公開オナニ

ーするから、あと二十回は自分にボールをぶつける、というのです。

もう、こうなると、あとは蹴る五人が、顔面や股間にだけは当てないように全神経を集中することくらいしかできません。

そして、彼らは、見事にその任務を遣り遂げました。下郷君も耐え抜きました。

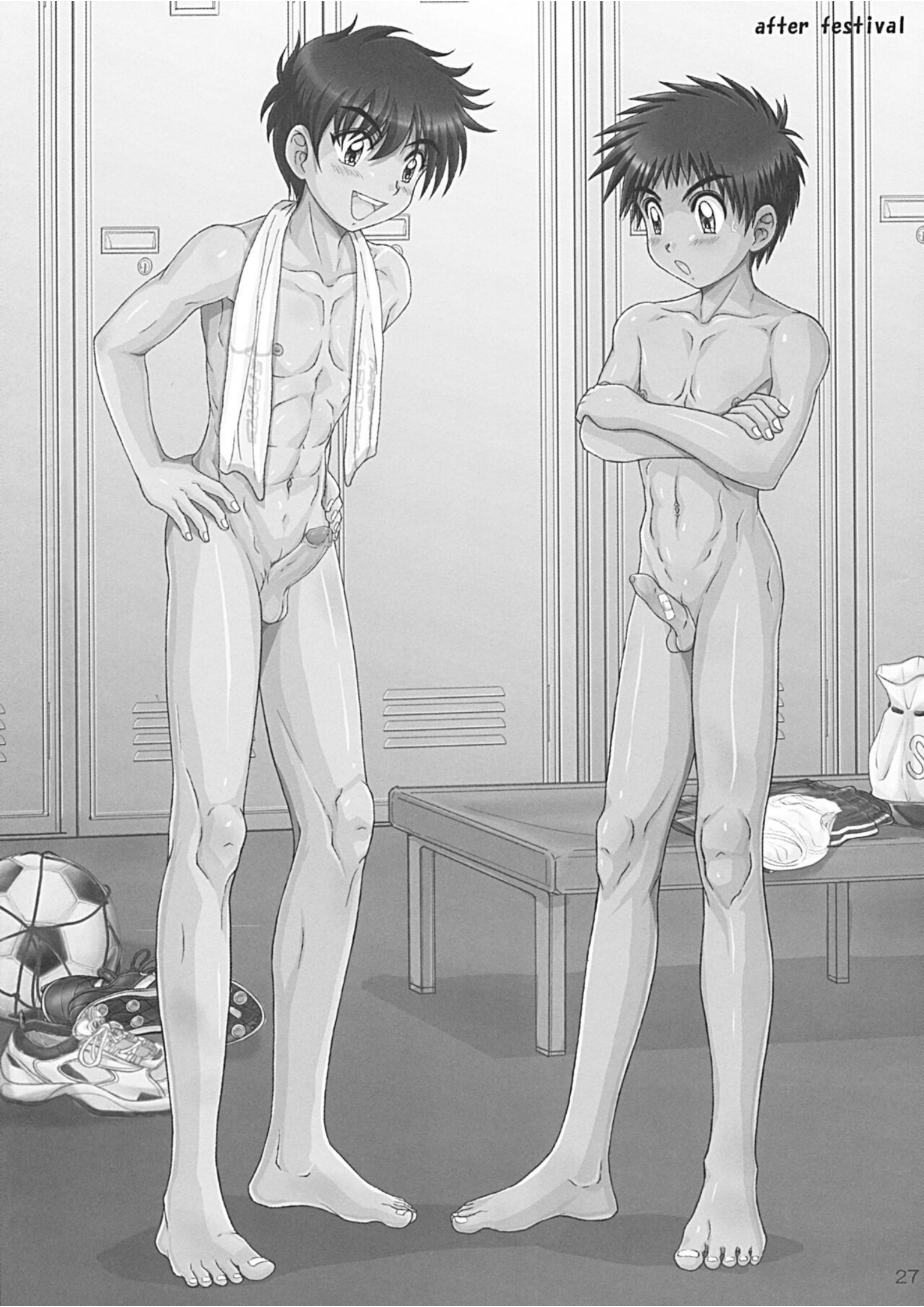
しかし、まだ終わりではありません。公開オナニー五回が残っています。ところが、これが思わぬ難関だったので。普段の下郷君なら、五回の射精など楽勝で、チームメイトも心配していなかったのですが、この日はコンディションが悪すぎました。既に数試合を戦った上に、この罰ゲームで、さすがの下郷君の体力も限界だったのです。どうしても、最後の一発が出ません。会場にも妙に重苦しい空気が漂いはじめてしまいました。

暫くすると、その様子を辛そうに見ていたチームメイトの一人が、いきなり駆け出して、全裸になって下郷君の隣に座り込み、チンプを抜きはじめました。すると、他のチームメイトも一斉に同じ行動を取り、チームの十一人全員が一丸となつての公開オナニーが始まりました。

こうして、筒カップエキシビジョンマッチは、十一人の射精とともに、無事閉幕しました。



















あとがき

皆さんこんにちは イラスト担当の筍屋です
まずは この本をお手にとって頂き 誠に有り難うございましたm(_ _)m

今回の本はイベントの内容規制の関係で、急遽でっち上げた本でして(^_^;;
筍屋としては史上最ヌル本となっております(T_T)
やはり うちの作風としてはSM拘束が無いと、拙いって物足りなさを感じますね
世間情勢等で仕方がない部分も有るんですが
いつまで活動できるのか、心配&寂しい感じがする今日この頃です_|_||O

当初予定していた作品を中止して着手した関係で
とにかく時間不足 準備不足でして
どかあなぞ その辺にある材料を掻き集めて作った為
クオリティ的にもキモシイ絵が多く、ユルユル&拙い絵ではありますが
筍屋的に大好きなサッカー少年を沢山放出いたしましたので(笑)
多少なりとも お楽しみ頂けたら幸いですm(_ _)m

2008年5月 筍屋

筍屋 takenokoya@yahoo.co.jp

竹藪館 <http://www.hi-ho.ne.jp/su-oh/keikoku.htm>

(御意見 御感想ありましたら宜しくお願いします)

はじめまして&おひさしぶりです。へたれ文字書きのた〜んけーですm(_ _)m

またまたお尻がいろんな意味で大変です。

この本の成り立ちについては、筍屋さんが書かれているとおりです。
今回の件について、イロイロ言いたいくことはありますが、
それを書いていると締め切りに間に合わなくなるのでやめておきます(^_^;;

でも、一言だけ。

原稿中、僕らのほうこそ、「緊縛・拘束」されていた気分でした(爆)
書きたいものを書けない、というのは本当に辛いですね…。

ぶっちゃけ、今回もかなりの変り種ですが、
どこが一場面でも、皆さんの琴線に触れられたら幸いです。

2008年5月 た〜んけー
tum_k_vf@yahoo.co.jp

Rookies Festival

2008年5月5日 初版発行

発行/筍御飯&ぶあいゐあむ

著者/筍屋&た〜んけー

印刷所/株式会社 プロス

連絡先/tum_k_vf@yahoo.co.jp

2003 spring



あおいぶ&おん御寄